所報ふくしま
窓
福島県教育センター
2022.3
No.182
「窓」に寄せる思い
～教育に寄せる心を開く小さな「窓」～
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

「1人1台時代に向けて-過去の例を振り返って-」

次長兼総務管理部長　宍戸喜孝

現在，ＧＩＧＡスクール構想のもと，学校での１人１台体制を整備している状況かと思います。教育を取り巻く環境が大きく変わる時期になると思います。

行政でも，電子政府を目指して，平成10年代に，１人１台体制が整備されました。福島県であれば，全庁的に電子県庁を目指して，「イグドラシル・プラン」として，整備を行っていました。「イグドラシル・プラン」の第１期が平成13～15年度で，第２期が平成16～18年度なので，平成10年代半ばには，職員の１人１台体制が整備されたと思います。「イグドラシル・プラン」では，各種整備を行いましたが，県全体で使用する広域基幹ネットワーク「うつくしま世界樹」や１人１台体制を整備した点では，現在と同じ流れだと思います。

このような時期には，業務もいろいろ変わり，悩みながら業務を行うこととなると思います。私は，１人１台体制となってから，何度かシステムの管理的な業務に携わっていたので，今回は，パソコンの更新を例に少し述べたいと思います。

１人１台体制となると，パソコンがないと仕事ができない部分も多く，パソコンを維持管理する必要がでてきました。パソコンも高額だった時代は，購入ではなく，リースで導入することも多く，故障時の保守も業者が行う契約となっているものもありました。今では，修繕まで行うのは少数派かと思います。そうなると，パソコンが故障した場合，修理することになります。ハードディスクの故障であれば，別途購入しておき，職員が修理交換することもありましたが，一般的には，業者に修理を依頼することになります。最近は，ノートパソコンの場合が多く，修理が難しかったり，高額な修理になったりして，別途購入せざるを得ないケースもでてくるかと思います。経年劣化するので，故障する台数も年々増える傾向にあります。担当者としては，計画的に毎年何台かずつ更新するのが安心できると思います。なかなか予算措置ができず，想定より長期間使い続けることになり，来年こそは更新と思ったときもありました。

同じパソコンを使い続けることは困難なので，最終的には，残りのパソコンをまとめて更新することになると思います。リースであれば，リース期間満了で更新することとなりますが，購入の場合，もう１年使えないか検討しながらの更新となると思います。逆に，一度に更新する方が，入札で安くなる可能性もあるので，ＯＳのサポート終了を踏まえて，一度に更新する場合もあります。更新する必要性もＯＳのサポート終了であれば，説得力があると思います。現時点（令和４年２月）に合わせていえば，Windows10 は，令和７年10月でＯＳのサポート終了と発表されております。それ以降はセキュリティ面も含めてアップデートが提供されなくなるので，業務で使用することはできなくなります。

現在使用しているパソコンあれば，Windows10が多いと思いますので，今後はサポート終了を踏まえて，更新を計画することになると思います。

残念ながら，ＯＳのサポート終了は，予定が変更になる場合もあるので，情報収集に努めて，計画を調整する必要があるなど，更新の担当者になると苦労する場面もあると思います。また，Windowsであれば，現時点ではWindows11が最新となりますが，令和７年の最新ＯＳが何になるかは未確定となります。過去の例であれば，Windows11の次のＯＳが令和７年の最新ＯＳの可能性もあると思います。ＯＳ以外のソフトも同様で，現在使用しているソフトを，機器更新後も使用し続けるかは未確定となります。入札で更新を行う場合，入札の条件がどうかも含めて調整する必要があります。

振り返ると，悩みも多かったですが，自分の思いを形にできる貴重な機会でもあり，いろいろ自分で調整できたのもよい経験でした。変革の時期は，チャレンジできる貴重な機会ですので，皆さんも，機会をとらえてチャレンジしてください。

本誌に関するご意見・ご感想，並びに研修に関するご質問等がございましたら，下記連絡先までお寄せください。

編集発行：　福島県教育センター　〒960－0101　福島市瀬上町字五月田16番地
TEL　024－553－3141（代表）　FAX　024－554－1588
URL　https://center.fcs.ed.jp　E-mail center@fcs.ed.jp

情報教育チームからの発信

１人１台端末の日常的な利活用に向けて

～ 令和３年度 チーム研究より ～

これまでのICT活用と何が違うの？

情報教育チームでは，１人１台端末活用の在り方（一年次）について研究に取り組みました。これまでＩＣＴは授業のみで活用されていたため，日常使いの有効性を理解したり，その活用場面を構想したりするまでには予想以上に時間がかかっています。これからは，日常的に学校教育全体を通じて鉛筆やノート等と同じように活用することが求められています。

今年度の成果をまとめたリーフレット「１人１台端末の日常的な利活用に向けて」とともに紹介します。

ステップ０とは

ＧＩＧＡスクール構想では，学びの変容イメージをステップ１からステップ３まで示しています。しかし，教員のＩＣＴ活用への不安感や抵抗感が大きく，すべての学校がすぐに「ステップ１」に踏み出すことは難しいと考えました。そこで，１人１台端末の日常的な利活用に向けて「ステップ１」の準備段階を「ステップ０」（Ａ：校内体制，Ｂ：校内研修，Ｃ：日常使い）と位置付けました。

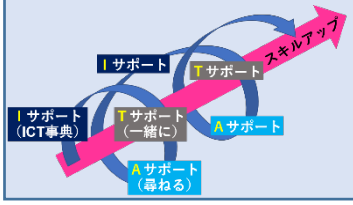
研究協力校での実践紹介

今年度は，「ステップ０」に重きを置き，１人１台端末を活用した授業（ステップ１）とともに実践しました。ここでは，「ステップ０」について紹介します。

Ａ：校内体制づくり

①ＩＴＡプロセス（リーフレット参照）

一人で解決できない場面での解決過程をＩＴＡプロセスとし，それを活用することでＩＣＴ活用のスキル向上を図りました。



- 一人で学ぶ**Ｉサポート**（Ｉ＝ＩＣＴ事典・ＩＣＴ質問センター）
- 一緒に操作する**Ｔサポート**（Ｔ＝Together）
- 尋ねて学ぶ**Ａサポート**（Ａ＝Ask）

②スキルアップチャレンジ

校務（教材研究や評価など）に必要なＩＣＴ活用のスキルについてアンケートフォーム（15 項目）で調査し，５つのレベル（プラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズ・称号なし）に分けました。また，フィードバック機能を活用して，分からない操作については資料へのハイパーリンクを表示し，個々でＩＣＴ活用のスキルアップを図ることができるようにしました。

③ＩＣＴ校内研修リーダーの活用

スキルアップチャレンジの結果を基に，ＩＣＴ校内研修リーダーを選出しました。小グループごとにＩＣＴ校内研修リーダーを配置したことで，リーダーと一緒に操作する姿（Ｔサポート）や，班員に気軽に尋ねる姿（Ａサポート）が研修を重ねるごとに多く見られるようになりました。

Ｂ：校内研修の実施

ＩＣＴ担当者が教員のＩＣＴ活用のスキルや活用状況から研修の内容を考え，次の内容を実施しました。

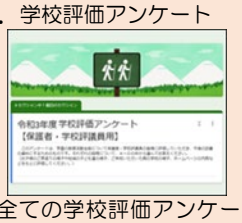
第１回　演習：授業支援ソフトの操作，協議・演習：ICT を活用した授業の構想
第２回　協議：ICT を活用した授業場面の共有，演習：アンケートフォームとＱＲコードの作成
第３回　演習：動画付きアンケートフォームの作成，協議・演習：ICT を活用した日常使いの構想

Ｃ：日常使いの構想と実践

先生方が校内研修で様々な体験をしたことで，日常使いの有効性を理解し，学級や委員会等での具体的な活用場面について構想し実践した一部を紹介します。

①教員の日常使い

ア．学校評価アンケート



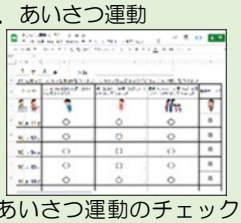
全ての学校評価アンケートをアンケートフォームで作成し，ＱＲコードで配布した。そして，得られた回答を自動的に集約した。

イ．遠隔地からのデータ共有

遠隔地から児童生徒の様子を撮影した写真や動画を，クラウドサービス上にある共有ドライブにアップロードし，教員間で共有を図った。

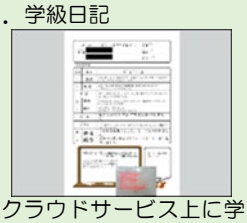
②児童生徒の日常使い

ア．あいさつ運動



あいさつ運動のチェックシートを，クラウドサービス上に作成した。児童は毎日入力し，一日を振り返った。

イ．学級日記



クラウドサービス上に学級日記を作成し，児童がその日の出来事を文章だけではなく，写真，動画を加えながら記録した。

１人１台端末の日常的な利活用に向けて

～「ステップ０」から「ステップ１」、そしてその先へ進むために～

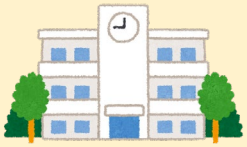
福島県教育センター

ステップ０

A：校内体制

学校管理職（校長・ 副校長・ 教頭）

《ビジョンを示す》
☐ 校内における課題の解決や目標の実現にＩＣＴ活用がどのように有効であるか。
☐ 校内のＩＣＴ活用を推進するためにどのような方策や体制づくりを進めるか。



ポイント
【学校管理職】
・ＩＣＴ活用を校内で推進するためにリーダーシップを発揮する。
・教員のＩＣＴ活用指導力のチェックリスト等の結果から、現状を分析する。

指示・委任　　企画・立案

ＩＣＴ推進チーム
【推進チームの構成員例】
・学校で研究をリードしていけるマネジメント力がある人
・実践でのＩＣＴ活用を提案する力を持つ人
・授業実践力に信頼がある人
・ＩＣＴ活用の取組を支える人

《ＩＣＴ推進チームの業務例》
・校内研修の企画・計画　　・教材作成・支援
・授業計画の作成・支援　　・ＩＣＴ活用事例

業務分担

ＩＣＴ支援員
《ＩＣＴ支援員の業務例》
・機器のメンテナンス
・ＩＣＴ機器活用事例の作成
・障害トラブル
・ＩＣＴ機器の利活用状況の調査・把握

ポイント
【ＩＣＴ推進チーム】
・学校の規模や教員のＩＣＴ活用指導力の現状から必要な人数を選定し、チームでＩＣＴの活用を推進する。
・ＩＣＴ活用が得意な教員ばかりではなく、授業力のある経験豊かな教員を加える。

研修・支援　　活用の相談

校内の教員

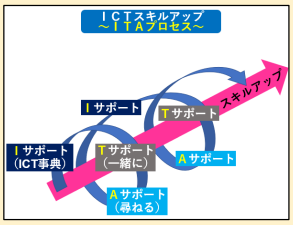
B：校内研修

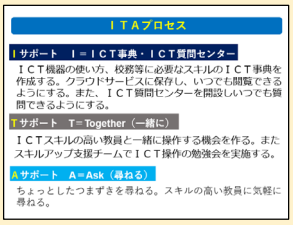
ＩＣＴ推進チーム
・ 実態把握（アンケート）
・学校の教育目標等に準じた校内研修計画の策定

・研修回数
・研修内容（アプリの使い方、授業・校務におけるＩＣＴ活用）
・研修の形態（一斉、グループ演習、模擬授業、課題別、選択制、自由参加など）

校内の教員

ポイント
【校内の教員】
・教員同士が教え合い、学び合う雰囲気を大切にする。





ポイント
【ＩＣＴ推進チーム】
・ＩＣＴ活用の有用性が理解できるように、計画的、段階的に進める。
・研修内容が機器やソフトウェアの操作等に偏らないようにする。

C：日常使い

校務の情報化

《例》
・職員会議のペーパーレス化　　・データの共有（必要に応じて各自印刷）
・学校評価アンケート　　・勤務計画　　・カレンダーの共有

教員
《例》
・学校と家庭（アンケート、お便り、欠席連絡など）

児童生徒
《例》
・学級活動（学級日誌、生活の記録、テスト計画など）
・委員会活動（新聞作成、〇〇調べ、生徒会選挙、図書カードなど）
・部活動（欠席連絡、技能向上のための動画撮影など）
・業間や昼休み（タイピング練習、運動の記録、調べ学習など）
・家庭学習（１日の反省、反転学習、音読の記録など）

端末活用のルールづくり

教育委員会
ガイドラインの提示

生徒指導委員会
生徒会
提案

学校での活用
家庭での活用
連携
保護者
地域

共通理解　共通指導
教員
児童生徒
発達段階に応じた情報モラル教育

ポイント
【生徒会】
・児童生徒もルールを考える。

ポイント
【ルールづくり】
・悲観的な表現（しない・禁止）ではなく、前向きな表現（します・しています）にする。
・児童生徒や保護者の意見も尊重し、ルールの見直しも視野に入れる。

GIGAスクール構想における「1人1台端末・高速通信環境」を活かした学びの変容イメージ

ステップ１
“すぐにでも”“どの教科でも”
“誰でも”活かせる１人１台端末

→

ステップ２
教科の学びを深める。
教科の学びの本質に迫る。

→

ステップ３
教科の学びをつなぐ。
社会課題等の解決や
一人一人の夢の実現に活かす。

１人１台端末を児童生徒が業間や昼休み等の授業以外で日常的に活用することで，児童生徒のＩＣＴ活用スキルの向上に繋がりました。

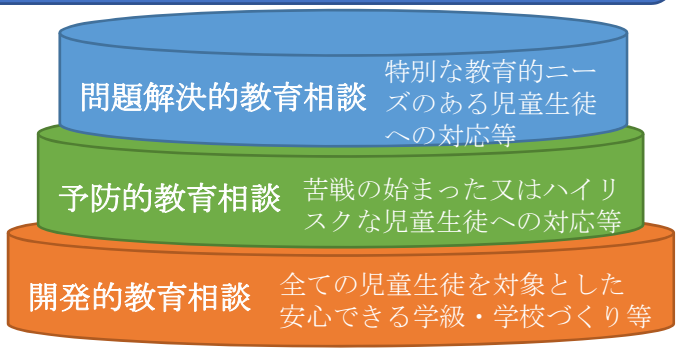
詳しくは，福島県教育センター 研究紀要 第 51 集をご覧ください。

令和４年度　教育相談系専門研修講座のご紹介

学校における生徒指導・教育相談を進める上で，右図のような三層での指導・支援が求められています。

令和４年度は，本県の児童生徒の実態を踏まえて，三層での指導・支援を行う上で求められる資質の向上を図るため，以下の専門研修講座を設けています。

先生方の受講をお待ちしております。



学校教育相談基本講座

◇１日の講座です。
◇学校教育相談の基本と相談面接における技法について学べます。
◇Q-Uによる個人理解や集団理解のアセスメントの仕方を，外部講師による講義・演習を通して学べます。
☆本講座を受講すると，次年度以降に「学校教育相談実践講座」が受講可能になります。

人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座

◇１日の講座です。
◇学級・ホームルーム等で活用できる，よりよい人間関係を育むための予防・開発的教育相談の手法（構成的グループエンカウンター，ソーシャルスキルトレーニング等）を，外部講師による講義・演習を通して体験的に学べます。

学校教育相談実践講座

◇１日×年３回の講座です。
◇自校の支援が必要な児童生徒について，年３回の事例研究を行うことで，多角的・多面的な視点で指導・支援の方向性を検討します。
◇３回の事例研究を行う上で応用できると考える知識や技法を，外部講師の講義・演習を通して学びます。外部講師による講義・演習名は以下の通りです。
「特別な教育的ニーズのある児童生徒の理解と対応」
「解決志向アプローチ」
「チーム学校における学校教育相談の在り方」
☆受講対象者
以下の研修のいずれかを受講した方
・教育センター主催の研修
「学校教育相談基礎講座」
「学校教育相談基本講座」
・福島県教育委員会主催の研修
「教育相談スキルアップ研修会」
「教育相談コーディネーター研修会」

いじめの理解と対応講座

◇１日の講座です。
◇いじめ防止対策推進法の理解を通して，いじめの未然防止や対処の仕方等について学べます。
◇いじめに関する識者を外部講師にお招きし，事例検討や講義・演習を通して，いじめの未然防止，早期発見，対処の具体を学べます。

不登校の理解と対応講座 NEW

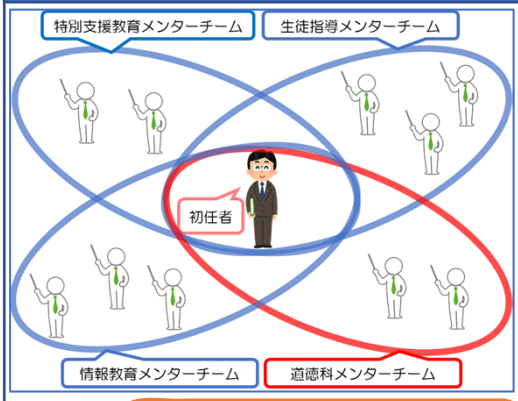
◇１日の講座です。
◇本県において不登校児童生徒の増加が喫緊の課題です。そのため，令和４年度から新設される講座です。
◇不登校に関する識者を外部講師にお招きし，不登校児童生徒及び保護者に対する指導・支援の在り方や，実際に不登校児童生徒にかかわる際の技法等を学べます。

教育相談チームからの発信②

メンターチームによる初任者研修を充実させる校内研修の在り方（第二年次）
ーピア・サポートを踏まえたＯＪＬを通してー

本県の初任者研修においては，令和元年度からメンター方式が導入されています。本チームでは，令和２年度から本研究を行ってきました。今年度の研究協力校２校の校内初任者研修の工夫をご紹介します。なお，詳細につきましては教育センターの研究紀要をご参照ください。

研修内容に応じたメンターチームの工夫【岩根小学校】



生徒指導協議会や現職教育研修会等の校内の様々な研修と校内初任者研修をタイアップさせて研修を行いました。

左図のように，**研修の内容に応じたメンターチームを構成**し，研修を実施しました。

初任者の道徳科授業研究においては，初任者と同学年の先生と道徳科主任がメンターチームとなり，研修が行われました。複数のメンターと相談しながら研究授業を実施することができ，学びの多い研修となりました。

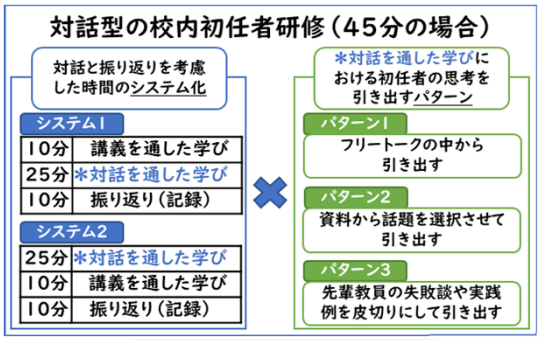
複数のメンターで研修を行うことで，初任者だけでなく**メンター相互の学び**にもなりました。**初任者の悩みについてチームで考えるよさ**がありました。

メンターの感想

授業実践の事前に，道徳科主任や学年の先生方に何度も相談させてもらえました。**いろいろな先生からアドバイスがもらえて悩みの解決につながりました。**

初任者の感想

対話型の研修にするための工夫【三春中学校】



初任者の困り感や悩みを引き出すために，左図のようなシステムとパターンを組み合わせた**対話型の校内初任者研修**を行いました。

研修は，初任者１名，メンター２名のメンターチームで行われました。研修の中で，先輩教員が失敗談や実践例を語ることで，初任者の指導上の悩みを引き出すことができ，今後の実践につなげるための対話型の研修を実現できました。

マンツーマンでの指導よりも，**複数メンターの方が負担がありませんでした。**初任者と対話できたことで，**初任者の困り感に寄り添った研修になりました。**

メンターの感想

対話型の研修だからこそ**自身の実践を振り返り，気付くことが多くありました。解決のためのアイディアもたくさん話し合うことができました。**

初任者の感想

メンターチームを活用した校内初任者研修後，初任者に以下のようなＯＪＬ（On the Job Learning）の姿を確認することができました。

校内初任者研修を通して，多くのメンターから学ぶことができた。

○様々なメンターがロールモデルとなり，自己の実践に取り入れる姿
○メンターの経験談を生かしながら実践する姿
○様々なメンターに自ら相談し，課題の解決につなげる姿
○普段の授業等で自信を失いがちだった初任者が，複数のメンターに価値付けられることにより，モチベーションを高めて学びに向かう姿

令和４年度 算数・数学科 専門研修講座紹介

A08 小学校算数講座

☆ 算数科「数学的活動の充実を図る授業づくり」講座 ☆

８月４日(木)～８月５日(金)

教材の本質をとらえるとともに，数学的活動を充実させ，子どもの数学的に考える資質・能力を育む授業づくりの研修を行います。本研修は，「算数の授業をなんとかしたい！」との熱い思いをもつ先生方が集まり，これからの算数の授業が変わっていくことを目指します。

小学校学習指導要領の算数科の目標には，「数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成することを目指す」とあります。本研修では，「数学的な見方・考え方」について，筑波大学附属小学校　盛山隆雄先生から「数学的な見方・考え方を働かせる算数科の授業」と題し，講義をいただきます。その後，先生方全員で教材分析，授業構想，そして模擬授業実践までの一連の授業づくりの過程を味わう研修を行います。

A09 中学校数学講座

☆ 教える授業から子どもが学ぶ授業に変わる数学科授業改善講座 ☆

６月１７日(金)

子どもが数学的活動に主体的に取り組むための授業の在り方についての研修を行います。中学校学習指導要領解説数学編には，「数学的に考える資質・能力を育成する上で，数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して学習を展開することを重視する」と明記されています。

これらを踏まえ，本研修では，中学校数学科の授業の目指す方向性について考えるために，特に授業改善としての主体的・対話的で深い学び，問題解決を重視した授業づくりについて，岩手大学教育学部　佐藤寿仁先生から「子どもの学びを中心に考える数学科の授業改善」と題して，演習を含めた講義をいただきます。

A10 高等学校数学講座

☆ 観点別学習状況の評価に対応する高等学校数学科単元・授業づくり講座 ☆

≪前期≫６月２０日(月)　≪後期≫９月２７日(火)

観点別学習状況の評価に対応する授業づくりに係る研修を行います。特に，この学習評価で一番難しいとされる「主体的に学習に取り組む態度」を中心に取り扱います。本研修は二期制となっております。

≪前期≫

観点別学習状況の評価から総括評価までの一連の流れを講義します。特に，評価が難しいといわれる「主体的に学習に取り組む態度」の評価について，岩手大学教育学部　佐藤寿仁先生から「主体的に学習に取り組む態度を見取る授業の在り方」と題して講演をいただきます。

≪後期≫

前期研修後に授業で実践した評価を研修者全員で共有し，授業づくりや評価場面に係るコツやバリエーションを増やしていきます。前期・後期研修のまとめとして，福島大学人間発達文化学類　森本明先生から「主体的に学ぶ態度を意図的に育む授業」と題して講演をいただきます。

A11 中学校・高等学校数学講座

☆ 生徒の問題解決や意思決定につながる統計授業づくり講座 ☆

≪前期≫６月２８日(火)　≪後期≫１０月３日(月)

ビッグデータを分析する時代が到来し，分析ツールとして「統計」が各業界で用いられるようになりました。中学校や高等学校の統計教育の現状は，計算に終始し，その値を根拠に問題解決や意思決定をするまでには至っていません。本研修では，PPDAC サイクルを用いた授業づくりの研修を行います。本研修は二期制となっております。

≪前期≫

校種を問わず，小中高で取り扱う統計のすべての内容を研修します。茨城大学教育学部　小口祐一先生から「統計教育における問題解決や意思決定について」と題し，統計授業づくりの講演をいただきます。特に，ＩＣＴを活用した授業づくりを中心にお話をいただきます。

≪後期≫

前期研修後に授業で実践した統計授業や構想した授業を研修者全員で共有し，明日の統計授業に活用できるノウハウを増やしていきます。

令和４年度　専門研修講座

高等学校英語
「観点別学習状況の評価のためのパフォーマンス評価実践講座」（前期・後期）

新学習指導要領がスタートする令和４年度入学生から，高等学校における学習評価の方法が大きく変わります。今後は，生徒の学習状況を，育成を目指す資質・能力である三つの観点から，より分析的に捉えることが求められます。これにより，外国語科では，**五つの領域×三つの観点**の評価が求められることになります。これらを適切に評価するには，ペーパーテストに加えて，多様な評価方法を用いることが必要になります。その一つが，**パフォーマンス評価**になります。

「観点別評価」及び「パフォーマンステスト」で悩まれている先生方のために，令和４年度の高校英語の専門研修がリニューアルします。その概要を紹介します。

日程と内容は？

日程と主な内容は以下の通りです。

前期　令和４年６月２１日（火）
①観点別評価の在り方（講義）
②パフォーマンス課題・ルーブリックの作成（演習）

後期　令和４年８月１６日（火）
①各校で実践したパフォーマンス課題とルーブリックの共有（協議）
※他校の取組や実践例を知るチャンスです！
②パフォーマンス評価の在り方（外部講師による講義・演習）

申し込みは？

所属校の管理職経由で教育センターに申し込んでください。令和４年度専門研修の申込締切日は４月２８日（木）です。各校の校内締切日はこれより早いので注意が必要です。なお，前期・後期どちらかのみの申し込みはできません。

対象者は？

高校英語科・特別支援学校の教諭の先生方を対象としています。定員は高校１５名に加え，特別支援学校数名です。パフォーマンス評価や観点別評価に自信がない先生にも，理解をさらに深めたい先生にも対応できる内容になっています。興味のある方は，ぜひ気軽な気持ちで参加してください。

【外部講師について】

玉川大学の**工藤洋路**先生に，後期の講義・演習「外国語科におけるパフォーマンス評価の在り方」を担当していただきます。工藤先生の専門は英語教育学で，英語ライティング論，言語テスト論を研究されています。パフォーマンス評価の専門家の講義・演習を受けてみませんか。

令和3年度　福島県教育研究発表会

「明日の　福島の　教育をつくる」をスローガンに，福島県教育研究発表会を11月25日(木)に開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため，初のオンライン開催となりましたが，県内各学校，園，当センターのチーム及び長期研究員等による20の研究発表や，東京学芸大学　総合教育科学系　教育心理学講座　准教授　犬塚　美輪氏による講演「論理的な読み書きの育成」など，充実した内容で実施することができました。

おかげさまで来賓を含め170名を超える皆様に視聴いただきました。参加者からは「知らぬ間に子どもたちを誘導し，思考を省いて教師が答えを提示してしまうなど，反省することが多々ありました。」など，これを機に授業改善につなげたいとする前向きな感想をたくさんいただきました。後援をいただきました福島県小・中学校長会，福島県高等学校長協会に厚くお礼申し上げます。来年度も実り多き研究発表会とするために準備を進めております。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

令和４年度福島県教育研究発表会のお知らせ
　日　時：令和４年11月25日（金）　９時50分開会
　内　容：各種研究発表及び講演

「タゼミオンライン」実施しました

「福島県教育センターが提案する新しい研修のかたち　夕方のスキマ時間コーヒー片手に学びませんか」をキャッチフレーズに，令和３年12月から令和４年２月にかけ，計６回の「タゼミオンライン」を実施しました。

平日の夕方，「学びの変革」をテーマに，広島県教育委員会の平川教育長をはじめとする多彩なゲストと県内の先生方による対話をYouTubeライブで限定配信し，コメントを通じて県内の視聴者のみなさんと交流しました。「夕方の短い時間でこれだけ濃密なお話が聞けるのは非常に良い研修の機会であると感じました。」「とても素敵な取り組みです。」などの感想が寄せられています。

令和4年度専門研修講座について

当センターでは，各学校や先生方のニーズに応える，多くの専門研修講座を用意しています。令和３年度は教育環境をめぐる変化に対応するため，多くの講座について新設・改編を行いました。定員の充足率は例年よりも高まりましたが，新型コロナウイルス感染症対策のため，少なからぬ研修講座で変更や中止を余儀なくされました。

令和４年度は，教科教育系31講座，教育相談系５講座，情報教育系５講座，教科外教育系４講座の計45講座を設置しております。

令和４年度の新規講座としては，「主体的・対話的で深い学びのための言語活動を構想する国語科授業づくり講座」「地域素材の教材化を通して授業が楽しくなる社会科講座」「子どもの成長を見取り評価に生かす小学校道徳科講座」「子どもの成長を見取り評価に生かす中学校道徳科講座」「不登校の理解と対応講座」があげられます。受講をお待ちしています。

教育センター来所時のお願い

いつも教育センターをご利用いただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染症対策等のため，以下のことをお願いします。

教育センターに来所される際は，当センターWebサイト「教育センターを利用される皆様へ」を必ずご確認ください。当センターでは「健康チェックシートの提出」「マスクの着用」「来所時の手洗い」をお願いしています。

また当センター西側の河川改修工事により，駐車可能台数が少なくなります。Webサイトの「駐車場案内図」をご確認ください。なお，乗り合わせや公共交通機関の利用をできるだけお願いします。

福島県教育センターURL
https://center.fcs.ed.jp